

第34回小出記念日本語教育学会年次大会

2025年6月28日（土）10時20分 開会 オンライン開催

2025年6月28日（土）更新版

参加費：会員 無料 非会員 2,000円 申込締切：6月16日（月） 定員：400名
事前申込登録：会員の方はMLをご参照ください。 非会員の方は右記よりお申込みください。 koide34th250628.peatix.com

◆ ◆ ◆ 講演（10:30～12:20） ◆ ◆ ◆

「対話を通じた学習者オートノミーおよびウェルビーイングの促進」

【講師】加藤 聡子氏 神田外語大学 学習者オートノミー教育研究所 准教授

【講演論旨】昨今の情勢がもたらしたライフスタイルや価値観の変化により、学習者はこれまで以上に「自分のあり方」や「自分の幸せ」を求めるようになっている。外国語学習においても、学習者オートノミーの重要性が広く認識される一方で、学習者ウェルビーイング（WB）の向上にも関心が高まっている。本講演では、学習者オートノミーを促進する対話的手法である学習アドバイジングにおける「リフレクティブ・ダイアログ」を紹介するとともに、学習者WBの構成要素やそれらに対話を通して促進する方法および学習WBの診断ツールを紹介し、教育現場における学習者WB向上とオートノミー育成を支援する具体的な方法を提案する。

◆ ◆ ◆ お昼休憩（12:20～13:20） ◆ ◆ ◆

口頭発表 第1会場

13:20～15:00

日本語力成績上位群と下位群による発話時の不安要素の差

ー 秦日工業大学におけるタイ人日本語学習者の場合ー

島田良幸（大阪観光大学別科）井上雅司（秦日工業大学）

断りにおける日本語母語話者および中国人日本語学習者のフィラーの特徴

ー I-JAS「断り」場面のロールプレイを用いてー

蒋文心（目白大学大学院生）

韓国人日本語学習者の感謝の表現に関する韻律上の工夫と日本語母語話者の聴覚

印象 ー 「ありがとうございます」を一例としてー

趙允彬（元早稲田大学大学院生）

15:10～16:15

相互行為における代用表現「あれ」の機能についての一考察

ー 自身の発言や言語行動に対して「あれ」を用いる場合を事例としてー

杉山郁美（宇都宮大学大学院生）

意見の対立をどのようにして課題遂行の促進につなげるか

ー 日中接触場面における四者間の話し合いに注目してー

袁姝（東京外国語大学）

口頭発表 第2会場

13:20～15:00

日本語教育 × VR・ARへの挑戦

ー 教室を超えたバーチャル学習ー

吉村由紀（マサチューセッツ大学アマースト校）

この時間に予定されていた発表は、発表者の都合により中止となりました。

生成AIの利用経験が学習者の認識と倫理観に及ぼす影響

ー 日本語教育における適用可能性の視点からー

水田佳歩（青山学院大学）

15:10～16:15

中国の日本語教科書における「～ていただく」の扱われ方に関する現状と課題

李航（一橋大学大学院生）

学部留学生初年次教育におけるCLILに基づく日本語授業を振り返る

古川嘉子（帝京大学）初鹿野阿れ（同）

口頭発表 第3会場

13:20～15:00

ベトナムZ世代の日本語学習者の留学の意味づけ

ー ウェルビーイングの視点からの考察ー

山川史（Vietnam Japan University）

留学生が「書くこと」に対して抱く苦手意識

ー エンゲージメントの観点による質的分析ー

小林真也（東京外国語大学大学院生）

指導経験5年未満の日本語学校等教員は書くことの指導の何に難しさを感じているのか ー 大学の日本語教員養成課程の授業開発に向けてー

鎌田美千子（東京大学大学院）坪根由香里（大阪観光大学）

副田恵理子（藤女子大学）西村美保（清泉女子大学）

15:10～16:15

インドネシア人日本語教師の語りから探る学び続ける意味

ー 複線経路・等至性モデリングによる分析ー

板丸華緒（国際医療福祉大学）杉島夏子（東北学院大学）

日本語自律学習支援アドバイザー育成のためのケース・スタディ研究

ー 来訪者分析に基づく事例集の開発過程と活用課題ー

寅丸真澄（早稲田大学）吉田好美（群馬大学）佐々木さくら（麗澤大学）

プーピンピュ（国際交流基金日本語国際センター）

詳しいプログラムはウェブサイトをご参照ください。プログラムに変更があった場合もこちらでお知らせいたします。 <https://koidekenin.org/>
小出記念日本語教育学会事務局 〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2 国際基督教大学日本語教育プログラム 小澤研究室 気付

主催：小出記念日本語教育学会